

■浜益区の新しい教育・保育環境整備に関する保護者説明会【概要】

日時：10月6日(木) 18:30

会場：浜益コミセン「きらり」

1. 増築校舎の配置案及び改修の概要について説明

【質疑応答】

(保護者)

Q. 除雪の雪はどこに堆積するのか。

A. 前庭と格技場横のスペースに堆積することで考えている。また、調整が済んでいるわけではないが、排雪の回数を増やすことができないかということも検討している。

(保護者)

Q. 体育館はそのまま使うのか。

A. 平成25年に建替えたものなので、そのまま使う予定でいる。

Q. がけ地のラインにかかっているが大丈夫なのか。

A. 建物の一部ががけ地のラインにかかっているが、そのラインに入っているからと言ってそれが必ずしも安全な建物ではないということではない。

建替え時の建築確認申請について許可もおりているので、安全性が確認されているものと認識している。

したがって、今回の改修工事で建て替える考えはない。

Q. 校舎の北側も土砂災害警戒区域にかかっているがそれはどうか。

A. 新たに北側に建物を建築したり、増築することはできないが、すでに建っている建物はそのままに、避難経路などのソフト面で対応していきたい。

学校においても防災訓練、防災教育も行われており、そうした場面を通じて、教職員も生徒もそうした地域であることを理解してもらっていると考えている。

Q. ここ数年は、記録的な豪雨など、これまでと違う災害が発生しており、過去に被害がなかったからと言って安心はできない。しっかりと対策をしてもらいたい。

A. 意見として承る。危機対策課からも助言をもらうなどして、安全に努めたい。

(保護者)

Q. 小学生も今ある中学校の玄関を使うのか。

A. 現在の玄関でも余裕があるので、そのように考えている。

Q. 階段の段が低学年の児童には高すぎるのではないか。昼休みなど体育館に行くためには経路も長く、階段も段が高いので小学生にはきついのではないか。

A. 学校統合の場合には、手すりや、階段に滑り止めを付けることなどで、必ずしも改修の必要はないという国の考え方があるので、現段階では改修は検討していない。

Q. 毎日の校内の移動は登下校時だけは無く、昼休みや体育館への移動などもあり複数回に及ぶ。安全性を考えると改修すべきだと思うがどうか。

A. 段を低くすると、その分段数が増えるので、スペース的な課題などをクリアしなければならない。持ち帰って技術的な検討をしたい。

(保護者)

Q. エレベーターは給食用なのか。

A. 人荷用で考えている。中学校は指定避難所になっていること、また、肢体不自由な子どもの通学のためにも、国はバリアフリー化を推進するよう促している。現在、給食は人力で2階に運んでいるので、エレベーターで運ぶことが可能となる。そのため、配膳室も設置する予定としている。

Q. 保育園児や低学年の児童は、エレベーターでいたずらしないような構造にしてほしい。

A. 意見として承る。今後、学校や保育園と対策について協議したい。

(保護者)

Q. 校舎の前の道路の幅員が狭い印象がある。保護者の送迎時に余裕をもってすれ違えるように、もう少し広く取ることにはできないのか。

A. 意見として承る。建物の位置などにも影響が出るので、検討が必要と考える。

Q. 大グラウンドを使うことについて、中学生は歩いて行けるだろうが、低学年はバスを使うなど安全面や移動に要する時間を考慮する必要があるのではないのか。

A. 低学年の児童は種目によっては、前庭でもちょっとした体育は可能と考えているが、学校とも協議したい。貴重な意見として承る。

(保護者)

Q. 渡り廊下の高さはどのくらいか。

A. (設計事務所) 地面から廊下の下端まで3.5mとれるようにしている。これは一番背の高い消防車両が通れる高さである。

(傍聴者)

Q. 学校、保育園施設の一体化が急がれるのというのは共通認識としてあるのはわかるが、体育館が北海道で規定する「がけ地条例」にかかっており、安全面を非常に心配している。

また、建築確認申請が通らない可能性もあると思うが、国庫補助の交付対象にならないといった可能性はないのか。

スピード感と安全のどちらを優先すべきかといえば、子どもたちの居場所であり、避難所でもある以上、安全が優先される。中学校用地においても、建て方によっては安全性の確保ができる。新たな建物であっても、渡り廊下でつないだ段階で体育館と一体の施設とみなされ、その安全性を理由に補助金や過疎債の対象外になることも考えられ、大きな痛手となる。その点をどう考えるか。

A. 平成25年に体育館の建て替えをしているが、その際にはボーリング調査もしており、一定の強度があると考えている。必ずしもがけ地に建物を建ててはいけないということではないと考えている。北海道の建築確認申請も許可されており、安全性のもとに建て替えが行われたものと認識している。

Q. 地球温暖化対策として、これから建設する公共施設はZEB仕様とすべきである。これは、後から実施するのは難しいと思うが、今から進める考えはないのか。

A. ゼロ仕様にするとなると、費用面もさることながら、どのようなものを使って発電するかということもある。現中学校敷地は太陽光パネルを設置するにもスペースがあまりないこと、屋上の強度的な問題もあり、現状導入は検討していない。

今回の計画では断熱性能を高める省エネ改修で進めていきたい。

Q. スピード感も大事だが、安全が第一。環境問題も大事だと思う。自分の中ではほ

かにもっと適地があるのではないかとの思いもある。

(傍聴者)

- Q. 教職員が増えることを考えると駐車場が狭いように思う。武道場はあまり使われていないので、それを壊して、そこに校舎を増築すればいい。
- A. 学校とも相談した中で、格技場は柔道やトレーニングに使われており、防災備蓄品の倉庫にもなっている。小学校が来ると備品も引っ越してくる形になるので、残す方向で考えている。
- Q. 計画案を横にして中学校の校舎の北側にくっつけた方が安く済むのではないか。
- A. 浄化槽や傾斜の問題などもあり難しいが、ご意見として承る。

(保護者)

- Q. このプランでは保育園が1階で小中は2階なので、不審者が侵入したりしてもお互いに情報を共有できないのではないか。何か連携方法を考えがあれば教えてほしい。
- A. 厚田学園などの先行例を参考にすることで、安全対策を検討できればと考えている。
学校と保育園、市教委でソフト面などでの連携を考えたい。

(保護者)

- Q. 増築校舎の2階の避難経路が少ないと思うが。外階段などを付ける考えはないか。
- A. 増築校舎の階段室と、渡り廊下から中学校の階段室を避難経路と考えている。

(保護者)

- Q. 1階に機械室があるので、そこから出火したら子どもたちは逃げられるのか。2階の階段室周辺が火事となった場合の避難経路を確保しないのか。
- A. (設計事務所) 増築校舎は、建築基準法に定める床面積から1箇所としている。また、鉄筋コンクリートで耐火性が高い建物になっており、すぐに延焼するような構造ではない。
外階段などは持ち帰って検討する。

(保護者)

- Q. 2階の普通教室で火事が起きた場合に、避難できるよう校舎の奥に外階段を付けてほしい。これは親としての希望です。
- A. 持ち帰って検討する。

2. 今後のスケジュールについて説明

【質疑無し】

3. 配置案(A案)で進めて良いか確認

この場では決められないとの意見があり、アンケート調査を実施することとした。

※19:55 終了